

ART MEETS ARCHITECTURE
COMPETITION 2001-2022

AAC POSTER COMPETITION
2008-2013, 2020-2022

第22回
学生立体アートコンペティション

AAC 2022

AAC
ART MEETS
ARCHITECTURE
COMPETITION



アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション（AAC）は、2001年に始まった当社主催の学生限定立体アートコンペです。

当社では、居住者にゆとりと遊びの空間を提供するため、自社開発したすべてのマンションのエントランスホールに彫刻や絵画などの芸術作品を展示して、ミニ美術館のような空間を創っています。その活動の中で、毎年何百人も芸大を受験し、その中から数十人が入学して、大学院へ十数名ほどが進んでも、卒業後も彫刻を続ける学生が1人いるかいけないかという現実を知りました。そこで、当社の活動を学生が知ることで、毎年数千棟と建つマンションのエントランスホールに彫刻を置くチャンスがあることに気付いて欲しいと思ったことから、AACを開始しました。

AACでは、最優秀賞を受賞した学生の作品が実際にマンションのエントランスホールに常設展示されます。自分の作品が公共の場所に設置されたという実績が、学生に対し卒業後プロとして活動していくうえでの自信につながり、活躍の場を広げるきっかけになればと考えています。

また、AACは公益社団法人企業メセナ協議会が主催する、企業が取り組むメセナ（芸術・文化振興による社会創造）活動を表彰する「メセナアワード2017」において優秀賞を受賞いたしました。私はこの活動が世の中の役に立ち、また、社会的な評価もいただいたことを大変うれしく思っております。

当社では、今後もこのコンペを継続することにより、若手芸術家の発掘、支援、育成に努めてまいりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社アーバネットコーポレーション
代表取締役会長兼CEO
服部 信治



Sculpture

立 体 アー ト 部 門

平尾 祐里菜

広島市立大学大学院

芸術学研究科 造形計画研究 金属造形領域



素材：金、銀、銅、鉄、金泥





【作品コンセプト】

東京という大都市に建設されるマンションには、様々な人が住んでいるのではないかと思います。この作品は、マンションに住まう人々を想い、一本の木に様々な種類の花を咲かせました。花の種類、咲く季節が異なっても、共存して生きる様を表しています。人も千種万様、色々な人が共存して暮らしています。見る人が豊かな暮らしになるよう生命力が溢れる花をエントランスホールに咲かせました。

用いた花は、東京23区の各区がシンボルとして制定している花・木です。重複が多く、まとめると10種類の花・木になりました。マンションが建つ江東区の区花はサザンカなので、サザンカのみ赤ピンク色に仕上げ、目を引かせています。

「動中の工夫は静中に勝ること百千億倍す」紙の上で構造を練り続けることも大切ですが、実際に手を動かし素材と向き合い続けるなかで、これまでとは異なる制作手法や新たな素材を見つけることができました。私自身今回の制作の中で得られたものがとても多く、これからの作品づくりの新たな起点、貴重な経験となりました。



【作品設置場所】

錦糸町Vプロジェクト
構造・規模：鉄筋コンクリート造7階建
総戸数：30戸
竣工年：2022年



錦糸町Vプロジェクト 外観



エントランスホール

審査風景

【一次審査】

氏名、性別、学校、受賞歴などのプロフィールは、完全に伏せた状態で書類審査を行う。最終審査に進む3作品と、入選数作品を選出する。



【最終審査】

実際に展示されるエントランスホールに作品を持ち込み、仮設置し、作者によるプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション終了後、最優秀賞を決定する。



「サクラの柱」

袁 方洲（エン ホウシュウ）

東京藝術大学大学院

美術研究科 工芸専攻陶芸(ガラス造形)研究分野 博士2年



素材：ガラス

【作品コンセプト】

日本に来てから、一番記憶に残っている風景は桜の花びらが散ってしまう瞬間です。桜の花の散り際に、周りの空間がピンク色に染まる瞬間の風景に惹かれ、「無常感」の美しさを感じました。この美しさの記憶を具現化し、サクラの概念を再構築したのが今回の立体作品です。ピンク色のガラスで鑄造された塊を積み上げ柱にしました。柱とは、建築物の支えとして認識されています。桜の美しさと柱のような造形を融合することで、自身の心象風景と生活の中で存在する小さな感動の瞬間をマンションのエントランスホールに入ってきた人々に伝えると同時に、安心感も与えることができたらと思っています。

私は昨年に続き、今年も優秀賞を頂き、作品を実際に制作する機会を得ました。AACで得た2回の実制作では、制作補助金の支給や関係者の皆様のご支援もあり、自分自身が作りたいと思っていた作品を完成させることができました。それは私にとって、何事にも代えがたい経験となりました。今後もAACで入賞したことにより得られた貴重な経験を生かして、作品の制作に取り組んでいきたいと思っています。



「杜の黎明」

中居 瑞菜子

東京藝術大学大学院

美術研究科 工芸専攻 漆芸領域



素材：漆、麻布、金粉、卵殻、乾漆粉、アワビ貝、琥珀

【作品コンセプト】

大都市東京に住み、目まぐるしい毎日を生きる居住者に癒しと元気を与えてくれるものは、フクロウではないかと思いました。そして、タイトル「杜の黎明」には何か新しいことを始める同世代の人々への応援の気持ちを込めています。フクロウは古くから幸運をもたらす縁起物として日本人に親しまれ、特に、玄関に置くと良いとされているので、エントランスホールに設置するのに最適と考えました。フクロウの特徴を残しつつ、どこから見ても美しい流線形のフォルムでモダンな印象を与え、その上で蒔絵、螺鈿、漆黒の艶上げなど漆芸の伝統技法を随所に施すことで過去から現代の美しさを凌駕する唯一無二の作品に仕上げました。

制作過程では、たくさんの挑戦と失敗がありましたが、全て今後の制作の糧になったと思います。公共空間への作品設置は、今まで創ってきた作品とは異なる新たな発見があり、勉強になりました。また、審査員からの貴重なアドバイスや、同じ学生のある作品を見て話せたことも良い経験となりました。これからも作家として新たな価値を創造し、挑戦を続けたいと思います。



「Slow Down Time」	「Little Forest」	「さいわい」
おう けつ うゐい なん 王 杰／隗 楠（VVチーム） 京都市立芸術大学大学院 博士課程 美術研究科 保存修復	中澤 瑞季 東京藝術大学大学院 博士後期課程 美術専攻 彫刻研究領域	金田 麻梨香 秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科
「シン・パンゲア」	「I-land」	
岡 空来 東京大学 工学部 建築学科 3年	松本 千里 広島市立大学大学院 博士後期課程 3年 芸術学研究科 総合造形研究 染織造形	
「歩幅が合うとき」	「雲と共に」	
鬼河 ひなた 広島市立大学 芸術学部 彫刻専攻 4年	村越 敬太 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士前期課程 工芸専攻	

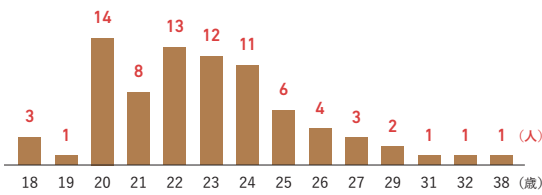
応募者集計結果

応募総数 93 作品（2021年度：107作品／2020年度：82作品）

応募者数 82 名（2021年度：97名／2020年度：72名）

平均年齢 23.2 歳（2021年度：23.1歳／2020年度：24.0歳）
※最年少18歳、最年長38歳

年齢



学校

近畿大学・大学院	11	筑波大学・大学院	2	常葉大学	1
多摩美術大学・大学院	9	東京大学・大学院	2	崇城大学	1
東京藝術大学・大学院	7	富山ガラス造形研究所	2	成安造形大学	1
大阪芸術大学・大学院	5	沖縄県立芸術大学大学院	1	長岡造形大学大学院	1
広島市立大学・大学院	4	京都精華大学	1	日本文理大学	1
日本大学・大学院	4	京都美術工芸大学	1	武蔵野美術大学	1
愛知県立芸術大学・大学院	3	九州産業大学	1	豊橋工科高等学校	1
愛知県立芸術大学・大学院	3	桑沢デザイン研究所	1	名古屋造形大学	1
秋田公立美術大学・大学院	3	佐賀大学	1		
東海大学・大学院	3	札幌市立大学大学院	1		
愛知工業大学・大学院	2	武蔵野大学	1		
金沢美術工芸大学・大学院	2	滋賀県立大学	1		
千葉大学	2	小山工業高等専門学校	1		

都道府県

大阪府	13	沖縄県	1
東京都	12	岐阜県	1
神奈川県	10	熊本県	1
千葉県	7	佐賀県	1
愛知県	6	新潟県	1
茨城県	4	静岡県	1
京都府	4	大分県	1
広島県	4	奈良県	1
秋田県	3	福岡県	1
滋賀県	2	北海道	1
石川県	2	和歌山県	1
富山県	2		
兵庫県	2		

審査員

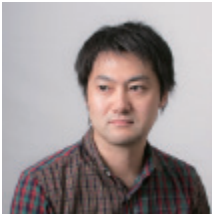
審査員長



Photo: Keizo Kioku

保坂 健二郎
Kenjiro HOSAKA
滋賀県立美術館ディレクター（館長）

1976年茨城県生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程（美学美術史学専攻）修了後、2000年より20年まで東京国立近代美術館（MOMAT）に学芸員として勤務、2021年より現職。企画した主な展覧会に「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」（2016年）、「日本の家 1945年以降の建築とくらし」（2017年）、「隈研吾 新しい公共性のためのネコの5原則」（2020-21年）、「人間の才能 生みだすことと生きること」（2022年）。「Logical Emotion: Contemporary Art from Japan」（2014年、ハウス・コンストルクティヴ他）など国外でも活動。



岩渕 貞哉
Teiya IWABUCHI
「美術手帖」総編集長

1975年横浜市生まれ。1999年慶応義塾大学経済学部卒業。2008年に編集長となり、2019年より現職。ウェブ版「美術手帖」やアートECサイト「OIL by 美術手帖」を立ち上げる。また、公募展の審査員やトークイベントの出演など、幅広い場面でアートシーンに関わる。



大竹 利絵子
Rieko OTAKE
彫刻家

1978年神奈川県生まれ。2002年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業。2004年同大学院美術研究科彫刻専攻修了、2007年同博士課程を修了。現在、東京藝術大学美術学部彫刻科准教授。少女や鳥鹿などを主なモチーフとして、クスノキやヒノキ、カツラなどを素材とする無彩色の木彫作品を制作する。木の生々しさや美しさを損なわないよう、素木仕上げの手法を貫き、勢いとリズム感のある鑿跡で表面を仕上げる。



服部 信治
Shinji HATTORI
主催会社 代表取締役会長 兼 CEO

1950年福岡県生まれ。一級建築士大学卒業後、主にマンションの設計・企画・コンサルに携わる。1997年に設計事務所として株式会社アーパネットコーポレーションを設立し、多くの分譲用ファミリーマンションの設計等を手がける。その後、自社で土地を取得し、投資用ワンルームマンションを中心とした独自性のある開発事業を展開し、2007年に自社の株式をジャスダック証券取引所に上場させた。設計士でありながら不動産開発会社を起こし上場させたという異色の経歴を持つ。一貫してマンションの設計に携わる中で、コンパクト性や機能性に偏り過ぎた日本のマンションに、もっと文化的な要素を取り入れたいと思うようになったことをきっかけに、自社で開発したマンションのエントランスにアートを取り入れるようになった。

総評

保坂健二郎——今回建てられたマンションは東京23区の一つである江東区にありますが、平尾さんはその23区の区の花と区の木を調べ上げ、単純計算では全部で46個になるはずなんですけれども、実際には重なっているものを抜いていくと全部で十個位にまとめられることに気づいた。そこで、その十個の一つのオブジェの中にまとめ上げて、しかもそれが、いろんな角度から見てもそれぞれにおいて非常にまとまりのあるものとしつつ、ただそれは人工的に作るものなわけですから、現実にはあり得ない状況で葉がついていたり、現実にはあり得ない重力との関係を感じさせるように枝がついていたり、人工物であるがゆえの美しさ、変化というものを非常に大事にした、そういう作品でした。それは、ほかのふたりの作品に比べると、正直なところ、インパクトという意味では欠けるかもしれませんが、袁さんのピンクのガラスの塊の作品の持つ重量感や存在感、あるいは中居さんのフクロウの作品の持っているユーモラスさに比べると、平尾さんの作品には少し繊細にすぎるところがあるんですけども、見る角度によって印象が違うとか、この作品をきっかけに十個の花と木の名前を覚えるかもしれないことで、住まわれている人が、江東区に住んでいることや、東京23区のある場所に住んでいることを誇りに思えるかもしれないといったように、生活との緩やかな結びつきとでもいうべきものを非常に感じさせてくれる作品だなというふうに感じまして、最終的に平尾さんの作品を選ばせて頂きました。

岩渕貞哉——僕がこの審査をするのは、2011年、2014年に続いて3回目となります。今回、AACが立体を制作する学生にとって大きな目標となる賞になっていることを実感しました。立体といっても応募作のメディアと技法のバリエーションが多彩になっているのと、マンションの住民の方への思い、コンセプトなど、具体的に設置することがしっかり考えられていて、全体的にとってもレベルが上がっていると思いました。

最終審査に進んだ3作品は、どれもマンションのエントランスに設置されるための基準はクリアされていました。そこからの審査だったので、議論も多く、難しくもありましたが、楽しくもありました。入賞の3名は、大変なプレッシャーの中で、それぞれ新しい挑戦をされていて、この経験は、今後のアーティスト活動においても必ず生かされることと思います。

大竹利絵子——学生の皆さんは、彫刻という表現が、その後どう展開して行くのか、社会とどのように関わっていくのかという点のイメージがしづらく漠然とした将来に不安を抱いてしまうことも多いのですが、このAACのコンペは最終審査が実践的な制作によって評価されるということで、その先の未来の自分のいる場所を想像することができる、とても意義のあるものだと思っています。私は2006年にこのコンペに応募させていただき、その時の自分の作品は未熟な点が多々あり入選という結果でしたが、審査員をされていた方とのご縁からその後ギャラリーで展示する機会を得て、発表する責任について考えるきっかけへと繋げさせていただくことができました。

皆さんも、今後、自分の行きたい道をしっかりと見据えながら、その都度、進むべき方向を自分で選び、更なるご活躍をしていただけるよう期待しています。



Poster ポスター部門

鮎川 裕之伸
多摩美術大学
美術学部 グラフィックデザイン学科 1年



応募時の作品

このポスターは「作る」という言葉の、根底にあるものを、可視化することを目標に制作しました。有形、無形、問わず私達は日々「作る」という行為を繰り返しています。先人達が培ったものによって自分を鑑み、私達は作ることで前進します。何かを作る全ての人に敬意を払い、「作る」という言葉に宿るものを、表現できるように努めました。今回の経験を活かし、日々進み続け、私は必ず、プロになります。



入選

「Unknown Art」

二村 紀花
武蔵野美術大学
造形学部 デザイン情報学科 3年



「立体作品の魅力」

金森 昂大
武蔵野美術大学
造形学部 視覚伝達デザイン学科 2年



「誰かが創った、きっと。」

神田 耕匠
多摩美術大学
美術学部 グラフィックデザイン学科 1年



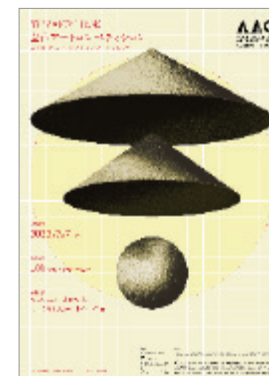
「スリーハンド」

宮森 寛太
東京ITプログラミング&会計専門学校
情報メディア学科 1年



「UFO (Unidentified Flying Object)」

北園 大和
愛知県立芸術大学大学院
美術研究科 デザイン専攻



「AAC 1/50」

桑原 葵
千葉大学
工学部 総合工学科 建築学コース 3年



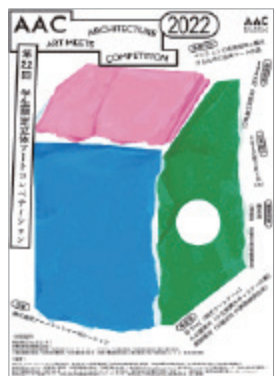
「融合」

小坂 優呂
多摩美術大学
美術学部 グラフィックデザイン学科 3年



「創造」

内山 楓
広告デザイン専門学校
広告デザイン科 1年



審査員

審査員長



ナカムラクニオ
Kunio NAKAMURA
「6次元」主宰／映像ディレクター

1971年東京都目黒区生まれ。
狹窪「6次元」主宰、映像ディレクター。
日比谷高校在学中から絵画の発表をはじめ、17歳で初個展。現代美術の作家としても活動し、山形ビエンナーレ等に参加。
また映像ディレクターとしてNHK WORLDで日本の文化を海外に伝える番組などを多数演出。
著書は『人が集まる「つなぎ場」のつくり方』(CCCメディアハウス)、『金継ぎ手帖』『古美術手帖』『チャートで読み解く美術史入門』『モチーフで読み解く美術史入門』『描いてわかる西洋絵画の教科書』(玄光社)、『洋画家の美術史』(光文社)など。



上西 祐理
Yuri UENISHI
アートディレクター／
グラフィックデザイナー

1987年東京都出身。
2010年多摩美術大学卒業、同年電通入社、2021年独立。
今までの仕事に、世界卓球2015 ポスター／テレビ東京、LAFORET GRAND BAZAR SUMMER 2018 & 2019／LAFORET HARAJUKU、雑誌「広告」／博報堂、#SHEMOVES MOUNTAINS／THE NORTH FACE、ISSEY MIYAKE PLEATS PLEASE 2018 FLAGS／ISSEY MIYAKE など。
主な受賞歴：東京ADC賞、JAGDA 新人賞、JAGDA 賞、CANNES LIONS金賞、NYADC金賞など。
趣味は旅と雪山登山。旅は現在42カ国達成。



服部 信治
Shinji HATTORI
主催会社 代表取締役社長

1950年福岡県生まれ。一級建築士。
大学卒業後、主にマンションの設計・企画・コンサルに携わる。1997年にマンション設計・企画を中心とした株式会社アーバネットコーポレーションを設立。2000年から投資用マンションの開発・1棟販売事業を開始し、その後、ファミリーマンションや戸建ての開発・販売等、事業を拡大。2007年に自社の株式をジャスダック証券取引所に上場させた。
一貫してマンションの設計に携わる中で、コンパクト性や機能性に偏り過ぎた日本のマンションに、もっと文化的な要素を取り入れたいと思い立ち、自社で開発したマンションのエントランスにアートを取り入れるようになった。

【総評】

ナカムラクニオ——最優秀賞作品は「昭和の前衛芸術」という雰囲気のアートで懐かしさ、さらに新しく感じました。余白と濃淡、風情のあるざらつき、色彩を極限まで抑制した表現が魅力的です。日本の伝統美であるワビ、サビ、渋さなども感じさせてくれるところに惹かれました。謎のオブジェが生命の輝きを放っているような印象も受け、アジア的な土着の美と現代的な感性を融合させた表現が魅力的だと思います。
コンペ全体の感想としては、「ちょっと大人しいな」という感じを受けました。募集のためのポスターであれば、見るだけでショックを受けるような作品がもっと増えてもいいのではないかと感じました。

上西祐理——コンペの募集告知自体を、コンペで募集するというユニークな試みで、学生のフレッシュさが溢れるコンペでした。
お題である「立体」コンペに対し、平面グラフィックからどのような表現でアプローチするのか、その点に関心を置き審査しましたが、鮎川さんの作品は重量感あるオブジェクトが大胆に配置され、手で作ることを感じさせる、プリミティブな力強さが溢れており、魅力的でした。
このポスターを見て立体コンペに応募する人もまた学生であり、良い共鳴が生まれると良いなと思っていました。

審査風景・表彰式



今までの最優秀賞作品を全てご紹介いたします。

2001



高橋桃 | 牛I



伴翼 | akka

2002



藤本明洋 | 目に見える偶然



2007



岩田秀和 | Balance - from a division body -



2008



小椋聡子 | ゆるやかなときのながれのなかで



佐野夏記 | (作品タイトルなし)

2003



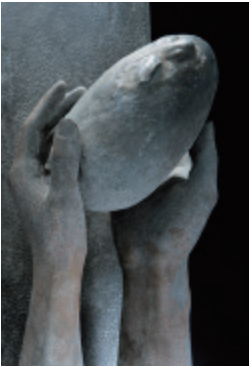
柳原絵夢 | monk's habit



2004



青柳慎 | Family's scenery



2009



八木貴史 | 天上の虹



村岡あさこ | 手に豆が出来る程

2010



宮原高広 | A.S.series 「第二の扉」



増川友梨・齋藤菜月 | HOUSE AAC

2005



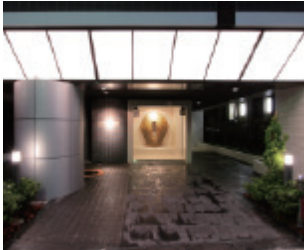
武藤亜希子 | その木が生える場所



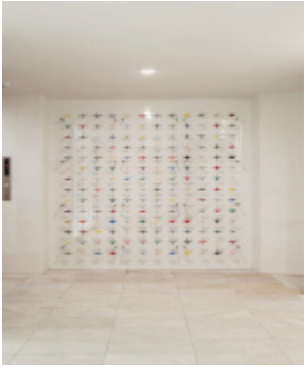
2006



堀園実 | 息を止めてきこえるリズム



2011



堀康史 | HOPE



藤平奈央子 | 平面から立体へ

2012

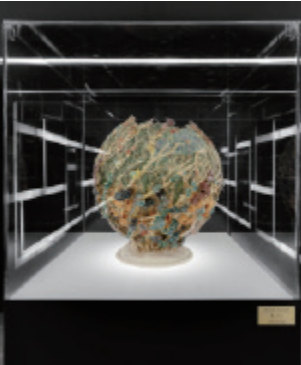


帆足枝里子 | 景



戸塚香里 | あたらしい鏡

2013



村上仁美 | eternal moment



関谷大志朗 | なにをみる。

2014



井田大介 | UNTITLED



2019



白谷琢磨 | the city



2020



勝川夏樹 | Microcosm



藤田理紗子 | 空間に産む

2015



渡辺志桜里 | ひとつのうみ



2016



古川千夏 | GEMME



2021



朧楠 | Power of Flower



大橋佐和子 | get bigger

2022



平尾祐里菜 | 千種万花



鮎川裕之伸 | 作る

2017



金俊来 | Waterfall



2018



雷康寧 | Be water my friend



2001年からスタートしたAACは、2022年で22回目の開催となりました。
手探りでスタートした第1回目の応募数は、4作品。
その中から立体作品1点、レリーフ作品1点が最優秀賞に選ばれました。
アート界で活躍されている多くの方々が審査にご協力くださり、
少しずつですが応募数も増え、毎年全国から多彩な作品が寄せられています。

今後もこのコンペを継続することにより、
若手芸術家の発掘・支援・育成に努めてまいります。

2001	最優秀賞	高橋桃 牛I 東京造形大学大学院 彫刻専攻 修士 2年
	優秀賞	伴翼 akka 東京造形大学 彫刻学科 4年
		大成哲 いち 日本大学 芸術学部 彫刻学科 3年
	審査員	山口史貴 東京造形大学
		高岡典男 彫刻家
2002		古賀賢治 アートディレクター／株式会社CYA 代表取締役社長
		櫻庭春来 画家
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト用賀アジュールコート（東京都 世田谷区）
2003	最優秀賞	藤本明洋 目に見える偶然 明星大学大学院 木材造形 修士1年
	優秀賞	三神慎一朗 彼女は見ている、彼女の世界観 東京藝術大学 工芸科 銀金 3年
		森園雅明 slow life 日本大学 彫刻専攻 3年
	審査員	金澤毅 美術評論家／成安造形大学名誉教授／元 原美術館館長
		加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
2004		高岡典男 彫刻家
		古賀賢治 アートディレクター／株式会社CYA 代表取締役社長
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	パテラ百合ヶ丘グランアジュール（神奈川県 川崎市）
2005	最優秀賞	柳原絵夢 monk's habit 東京藝術大学大学院 彫刻科 修士 2年
	優秀賞	青柳慎 見知らぬワタシ 京都造形芸術大学大学院 修士 1年
		安部公房 無題 武蔵野美術大学大学院 彫刻 修士 2年
	審査員	森貴也 ここから・・・ 大分大学大学院
		金澤毅 美術評論家／成安造形大学名誉教授／元 原美術館館長
2006		正木基 美術評論家／目黒区美術館 学芸員
		加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
		高岡典男 彫刻家
		古賀賢治 アートディレクター／株式会社CYA 代表取締役社長
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
2007	設置場所	ステージグランデ三軒茶屋アジュールコート（東京都 世田谷区）
2008	最優秀賞	青柳慎 Family's scenery 京都造形芸術大学大学院 芸術表現学科 修士 2年
	優秀賞	今井紫緒 組み立てられた時間 東京藝術大学大学院 彫刻専攻 修士 2年
		本田祐介 a part 東北芸術工科大学 美術科 工芸 金属 3年
	審査員	金澤毅 美術評論家／成安造形大学名誉教授／元 原美術館館長
		高岡典男 彫刻家
2009		古賀賢治 アートディレクター／株式会社CYA 代表取締役社長
		清水敏男 美術評論家／学習院女子大学教授
		加藤陽之 STUDIO VOICE編集長
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト三軒茶屋アジュールコートII（東京都 世田谷区）
2010		
2011	最優秀賞	武藤亜希子 その木が生える場所 東京藝術大学大学院 絵画科 油画専攻 博士 3年
	優秀賞	佐脇遥 Tom Cat 2005 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ アートジュエリー 2年
		向川未桜 杜の子 北海道教育大学 芸術文化課程 美術 1年
	審査員	柳公絵 成長 長岡造形大学 工芸デザイン 3年
		岡部あおみ 美術評論家／武蔵野美術大学教授
2012		保科豊巳 現代美術家／東京藝術大学助教授
		広本信幸 @ギャラリータグポート 担当ディレクター
		真壁佳織 美術ジャーナリスト
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト田園調布アジュールコート（東京都 世田谷区）
2013		
2014	最優秀賞	堀園実 息を止めてきこえるリズム 沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 彫刻専攻 4年
	優秀賞	北川太郎 時空ピラミッド 愛知県立芸術大学大学院 彫刻 修士 2年
		武末裕子 membran 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 修士 2年
	審査員	青木淳 建築家
		宮村周子 編集者／ライター
2015		小山登美夫 小山登美夫ギャラリーオーナー
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト板橋仲宿アジュールコート（東京都 板橋区）
2016	最優秀賞	岩田秀和 Balance - from a division body - 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 研究生
	審査員特別賞・優秀賞	小泉悟 経過する時間 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 環境造形専攻 彫刻専攻 修士 1年
	優秀賞	井川彩子 ゆるり 東京藝術大学大学院 美術研究科 ガラス造形専攻 修士 2年
	審査員	南條史生 森美術館館長
		西沢立衛 建築家／ライター
2017		佐谷周吾 ギャラリスト／シュウゴアーツ代表
		児島やよいキュレーター／コーディネーター／ライター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト両国南アジュールコート（東京都 墨田区）
2018	最優秀賞	小椋聡子 ゆるやかなときのながれのなかで 東京藝術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 研究領域 工芸 銀金
	優秀賞	三上賢治 Wall 広島市立大学大学院 芸術学研究科 総合造形芸術 博士後期課程 1年
		奥村太郎 ときのなみ 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 彫刻 修士 1年
	審査員	酒井忠康 世田谷美術館館長／美術評論家
		小柳敦子 ギャラリー小柳ディレクター
2019		鈴木芳雄 マガジンハウス ブルータス 副編集長
		内田真由美 アート・コーディネーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	アジュールコート荻窪（東京都 杉並区）
2020		[ポスター部門]
	最優秀賞	佐野夏記 静岡文化芸術大学 デザイン学部 生産造形学科
	審査員特別賞	早川裕子 武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
	審査員	鈴木芳雄 マガジンハウス ブルータス 副編集長
		菊地敦己 Bluemarkアートディレクター
2021		服部信治 主催会社 代表取締役社長
2022	最優秀賞	八木貴史 天上の虹 武蔵野美術大学大学院 造形研究科 美術専攻 彫刻コース
	優秀賞	片井彩霞 うずくまる 九州産業大学大学院 芸術学部 芸術専攻科
		本郷芳哉 立つこと 東京藝術大学 美術学部 彫刻科 研究生
	審査員	小池一子 クリエイティブディレクター
		堀元彰 東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーター
2023		白石正美 白石コンテンポラリーアート代表
		北澤ひろみキュレーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	アジュールコート武蔵小杉（神奈川県 川崎市）
2024		[ポスター部門]
	最優秀賞	村岡あさこ 手に豆が出来る程 多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科 3年
	審査員	えぐちりか アーティスト／アートディレクター
		北澤ひろみキュレーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
2025		
2026	最優秀賞	宮原高広 A.S.series「第二の扉」 東京藝術大学大学院 美術学部 彫刻科
	優秀賞	堀康史 セルメン 多摩美術大学 美術学部 油画専攻 3年
		小野真由 彩 多摩美術大学 美術学部 工芸学科 陶プログラム 3年
	審査員	新見隆 デザイン・美術評論家／キュレーター
		植松奎二 芸術家
2027		千葉由美子 ユミコチバアソシエイツ代表
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	AXAS森下sta.（東京都 江東区）
2028		[ポスター部門]
	最優秀賞	増川友梨・齋藤菜月 HOUSE AAC 女子美術大学 芸術学部 デザイン学科 4年
	審査員	杉山ユキ 株式会社博報堂 アートディレクター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長

2006	最優秀賞	堀園実 息を止めてきこえるリズム 沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 彫刻専攻 4年
	優秀賞	北川太郎 時空ピラミッド 愛知県立芸術大学大学院 彫刻 修士 2年
		武末裕子 membran 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 修士 2年
	審査員	青木淳 建築家
		宮村周子 編集者／ライター
2007		小山登美夫 小山登美夫ギャラリーオーナー
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト板橋仲宿アジュールコート（東京都 板橋区）
2008	最優秀賞	岩田秀和 Balance - from a division body - 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 研究生
	審査員特別賞・優秀賞	小泉悟 経過する時間 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 環境造形専攻 彫刻専攻 修士 1年
	優秀賞	井川彩子 ゆるり 東京藝術大学大学院 美術研究科 ガラス造形専攻 修士 2年
	審査員	南條史生 森美術館館長
		西沢立衛 建築家／ライター
2009		佐谷周吾 ギャラリスト／シュウゴアーツ代表
		児島やよい キュレーター／コーディネーター／ライター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト両国南アジュールコート（東京都 墨田区）
2010	最優秀賞	小椋聡子 ゆるやかなときのながれのなかで 東京藝術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 研究領域 工芸 銀金
	優秀賞	三上賢治 Wall 広島市立大学大学院 芸術学研究科 総合造形芸術 博士後期課程 1年
		奥村太郎 ときのなみ 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 彫刻 修士 1年
	審査員	酒井忠康 世田谷美術館館長／美術評論家
		小柳敦子 ギャラリー小柳ディレクター
2011		鈴木芳雄 マガジンハウス ブルータス 副編集長
		内田真由美 アート・コーディネーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	アジュールコート荻窪（東京都 杉並区）
2012		[ポスター部門]
	最優秀賞	佐野夏記 静岡文化芸術大学 デザイン学部 生産造形学科
	審査員特別賞	早川裕子 武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
	審査員	鈴木芳雄 マガジンハウス ブルータス 副編集長
		菊地敦己 Bluemarkアートディレクター
2013		服部信治 主催会社 代表取締役社長
2014	最優秀賞	八木貴史 天上の虹 武蔵野美術大学大学院 造形研究科 美術専攻 彫刻コース
	優秀賞	片井彩霞 うずくまる 九州産業大学大学院 芸術学部 芸術専攻科
		本郷芳哉 立つこと 東京藝術大学 美術学部 彫刻科 研究生
	審査員	小池一子 クリエイティブディレクター
		堀元彰 東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーター
2015		白石正美 白石コンテンポラリーアート代表
		北澤ひろみ キュレーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	アジュールコート武蔵小杉（神奈川県 川崎市）
2016		[ポスター部門]
	最優秀賞	村岡あさこ 手に豆が出来る程 多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科 3年
	審査員	えぐちりか アーティスト／アートディレクター
		北澤ひろみ キュレーター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
2017		
2018	最優秀賞	宮原高広 A.S.series「第二の扉」 東京藝術大学大学院 美術学部 彫刻科
	優秀賞	堀康史 セルメン 多摩美術大学 美術学部 油画専攻 3年
		小野真由 彩 多摩美術大学 美術学部 工芸学科 陶プログラム 3年
	審査員	新見隆 デザイン・美術評論家／キュレーター
		植松奎二 芸術家
2019		千葉由美子 ユミコチバアソシエイツ代表
		服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	AXAS森下sta.（東京都 江東区）
2020		[ポスター部門]
	最優秀賞	増川友梨・齋藤菜月 HOUSE AAC 女子美術大学 芸術学部 デザイン学科 4年
	審査員	杉山ユキ 株式会社博報堂 アートディレクター
		服部信治 主催会社 代表取締役社長

2011	最優秀賞 優秀賞	堀康史 HOPE 多摩美術大学 美術学部 油画専攻 4年 帆足枝里子 土塊 女子美術大学大学院 美術研究科 美術専攻 修士課程 立体芸術 向川千世 時を紡いで 大阪教育大学大学院 教育学研究科 美術教育専攻
	審査員	酒井忠康 世田谷美術館館長／美術評論家 岩渕貞哉 月刊『美術手帖』編集長 内田真由美 アート・コーディネーター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト両国アジールコート（東京都 墨田区）
		[ポスター部門]
	最優秀賞 審査員	藤平奈央子 平面から立体へ 日本大学 芸術学部 デザイン学科 2年 帆足英里子 株式会社ライトバプリシティアートディレクター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
2012	最優秀賞 優秀賞	帆足枝里子 景 女子美術大学大学院 美術研究科 美術専攻 修士課程 立体芸術 グループ名：金保／平山 ー 金保洋・平山里紗 結 金沢美術工芸大学 美術工芸学部 工芸専攻 2年 山口恵美 catena 佐賀大学大学院 教育学研究科 教科教育専攻 修士2年
	審査員	南條史生 森美術館館長 広本伸幸 実践美学者 児島やよい キュレーター／コーディネーター／ライター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	AXAS上野北（東京都 台東区）
		[ポスター部門]
	最優秀賞 審査員	戸塚香里 あたらしい鏡 武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 3年 長嶋りかこ 博報堂 アートディレクター／デザイナー 服部信治 主催会社 代表取締役社長
2013	最優秀賞 優秀賞	村上仁美 eternal moment 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科 彫刻領域 大野晴美 Human sign 女子美術大学大学院 美術研究科 美術専攻 立体芸術研究領域 安達淳 表出 武蔵野美術大学大学院 造形研究科 デザイン専攻 建築コース
	審査員	土屋公雄 彫刻家／愛知県立芸術大学教授 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長 宮村周子 編集者／ライター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージグランデ蒲田アジールコート（東京都 大田区）
		[ポスター部門]
	最優秀賞 審査員	関谷大志朗 なにをみる。 関西大学大学院 理工学研究科 ソーシャルデザイン専攻 建築学分野 修士1年 高井薫 株式会社サン・アドアートディレクター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
2014	最優秀賞 優秀賞	井田大介 UNTITLED 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 穴井麻美 見つめる 多摩美術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 グループ名：進藤・山崎・前原・横田 フォトンの日々 進藤篤 東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻 山崎明史 日本大学大学院 芸術学研究科 造形芸術専攻 前原良平 日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 3年 横田安紀 日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 4年
	審査員	塩田純一 新潟市美術館館長／美術評論家 岩渕貞哉 月刊『美術手帖』編集長 森千花 東京都現代美術館 学芸員 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	グランドコンシェルジュ新御徒町アジールコート（東京都 台東区）
2015	最優秀賞 優秀賞	渡辺志桜里 ひとつのうみ 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 佐藤風太 気配 東京藝術大学 美術学部 彫刻専攻 3年 金俊来 日の出 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士課程 漆工専攻
	審査員	清水敏男 TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE代表 鈴木芳雄 編集者／美術ジャーナリスト／愛知県立芸術大学客員教授 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージグランデ清澄白河アジールコート（東京都 江東区）

2016	最優秀賞 優秀賞	古川千夏 GEMME 広島市立大学大学院 芸術学研究科 博士前期課程 造形芸術専攻 中尾俊祐 Corona 和歌山大学 システム工学部 デザイン情報学科 4年 堀田光彦 朝の輝き 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 鋳金研究分野 修士 1年
	審査員	秋元雄史 東京藝術大学大学美術館館長／金沢21世紀美術館館長 望月かおる 月刊『美術手帖』副編集長 内田真由美 アート・コーディネーター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト蔵前IIアジールコート（東京都 台東区）

2017	最優秀賞 優秀賞	金俊来 Waterfall 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 博士課程 漆工専攻 後藤宙 Heterogen 東京藝術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 土井彩香 Starting from white 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻
	審査員	堀元彰 東京オペラシティアートギャラリーチーフ・キュレーター 三沢厚彦 彫刻家 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	AXAS代々木八幡アジールコート（東京都 渋谷区）

2018	最優秀賞 優秀賞	雷康寧 Be water my friend 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 佐野圭亮 現の秤 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 堀田光彦 精神の美 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 鋳金研究分野 研究生
	審査員	馬淵明子 国立西洋美術館館長 ヤノベケンジ 現代芸術作家 内田真由美 アート・コーディネーター 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	ステージファースト両国IIアジールコート（東京都 墨田区）

2019	最優秀賞 優秀賞	白谷琢磨 the city 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 番原耕一郎 Neighbor 広島市立大学大学院 芸術学研究科 総合造形芸術専攻 五十嵐亮太 半分の阿咩 東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻
	審査員	藤森照信 建築家／建築史家／東京都江戸東京博物館館長 橋本麻里 ライター／エディター／公益財団法人永青文庫副館長 小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	アジールコート台東根岸（東京都 台東区）

2020	最優秀賞 優秀賞	勝川夏樹 Microcosm 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 グループ名：hamuhamu ー 早坂雅寿・堀真代 ひとときひととき 京都市立大学 システムデザイン学部 システムデザイン学科 インダストリアルアートコース 4年
	審査員	山崎稚子 むれやなぎ 文化服装学院 服飾専門課程 服飾研究科 1年 片岡真実 森美術館 館長 宮津大輔 アート・コレクター／横浜美術大学 学長 大成哲 彫刻家／第1回AAC優秀賞受賞 服部信治 主催会社 代表取締役社長
	設置場所	メイクス新中野アジールコート（東京都 中野区）

		[ポスター部門]
	最優秀賞 審査員	藤田理紗子 空間に産む 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 2年 森井ユカ 立体造形家／雑貨コレクター 古平正義 アートディレクター／デザイナー 服部信治 主催会社 代表取締役社長

2021

最優秀賞
優秀賞

審査員

設置場所

最優秀賞
審査員

隼楠 | Power of Flower 京都市立芸術大学大学院 美術研究科 漆工領域
袁方洲 | さんすいの間 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻
山口聡士 | 蜃気回層 東京工業大学大学院 環境・社会理工学院 建築学系建築学コース
青木淳 建築家／京都市美術館館長
荒神明香／南川憲二 現代アートチーム 目[mé]
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社 代表取締役社長／日本現代美術商協会（CADAN）代表理事
服部信治 主催会社 代表取締役社長
ステージグランデときわ台アジールコート（東京都 板橋区）

[ポスター部門]
大橋佐和子 | get bigger 呉工業高等専門学校 建築学科 4年
古平正義 アートディレクター／デザイナー
ナカムラクニオ 「6次元」主宰／映像ディレクター
服部信治 主催会社 代表取締役社長

2022

最優秀賞
優秀賞

審査員

設置場所

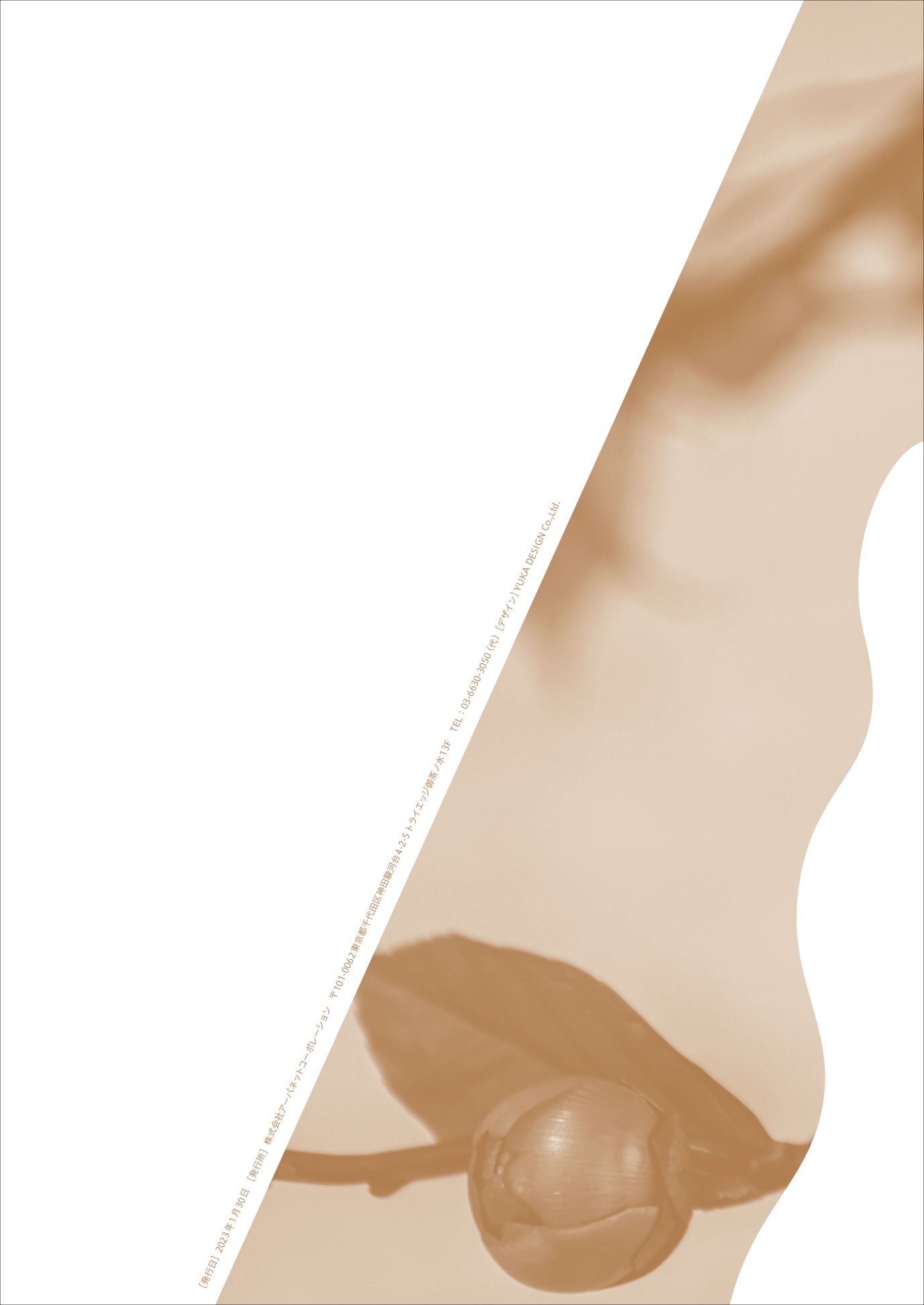
最優秀賞
審査員

平尾祐里菜 | 千種万花 広島市立大学大学院 芸術学研究科 造形計画研究 金属造形領域
袁方洲 | サクラの柱 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻陶芸(ガラス造形)研究分野 博士2年
中居瑞菜子 | 杜の黎明 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 漆芸領域
保坂健二郎 滋賀県立美術館ディレクター（館長）
岩渕貞哉 「美術手帖」総編集長
大竹利絵子 彫刻家
服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO
錦糸町Vプロジェクト（東京都江東区）

[ポスター部門]
鮎川裕之伸 | 作る 多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科 1年
ナカムラクニオ 「6次元」主宰／映像ディレクター
上西祐理 アートディレクター／グラフィックデザイナー
服部信治 主催会社 代表取締役会長兼CEO

AAC2022 立体アートコンペティション概要

募集期間	2022年4月20日～7月4日
募集内容	設置場所の空間を生かした立体アート作品
条件	1. 未発表のオリジナル作品 2. 展示場所にアンカー等で固定できる形状 3. マンションの入居者にとって安全で心地よさを感じさせる作品 4. 電源の供給を必要とする作品は不可
設置場所	錦糸町Vプロジェクト（東京都江東区）のエントランスホール
素材	石・鉄・FRP 等、長期展示に耐えうる材質
作品サイズ	幅2,400×奥行900×高さ2,200mmに収まるもの／台座置き 重量約100kg以下／壁付け 約50kg以下
応募資格	全国の大学・大学院・短期大学・専門学校・高校等で、 美術・芸術・デザイン・建築・空間演出等を学んでいる学生（グループ可）
応募点数	複数応募可
賞	最優秀賞（1点）…… 賞金総額100万円（美術旅行費を含む）／作品は作者名(グループ名)の入ったプレートと共にマンションに常設設置 優秀賞（2点以上）…… 賞金20万円 入選（数点）…………… 賞金5万円
制作補助金	一次審査を通過した入賞作品（3点以上）には制作補助金として20万円+搬出入費を支給 ※遠方者の交通費・宿泊費も別途支給
協賛企業 ※50音順	特別協賛 株式会社アセットリード／伊藤忠都市開発株式会社／株式会社共同設計事務所／ 株式会社クロスファクトリー／ケネディクス株式会社／株式会社合田工務店 東京本店／ 三信住建株式会社／株式会社陣設計／株式会社タカラレーベン／多田建設株式会社／ 東急不動産株式会社／株式会社PIM／株式会社メイクス／株式会社 明和 協賛 株式会社朝倉崇夫都市建築設計事務所／エスパスリエ建築工房一級建築士事務所／ NECネクサソリューションズ株式会社／株式会社エル設計事務所／カイトイ工業株式会社／ 株式会社核建築設計事務所／有限会社キューオーエルクリエーション一級建築士事務所／ 協立機電工業株式会社／株式会社グッドライフスタイルプラス／京王建設株式会社／株式会社後藤組／ 株式会社コルピノス／坂田建設株式会社／三誠産業株式会社／株式会社GSコーポレーション／ 株式会社シーファイブ／株式会社住宅新報／新三平建設株式会社／株式会社第一ヒューテック／ タカラスタンダード株式会社／株式会社田中電気工業所／東京カレント株式会社／ 株式会社都市建コーポレーション／株式会社ニシヤマ建築デザイン／日ポリ化工株式会社／ 株式会社不動産経済研究所／モーニングスター株式会社／株式会社吉田正志建築設計室 賛助 株式会社アクシード設計事務所／株式会社アクロス／イデア株式会社／株式会社ウミイチ／株式会社ギャバン／ 篠崎・進士法律事務所／株式会社スタイレックス／株式会社設計工房イー・ディー／セブンランズ株式会社／ 株式会社地域環境開発／ナチュラルデザイン／株式会社柳学アーキテクト／ラン株式会社



【発行日】 2023年1月30日 【発行所】 株式会社アーバネットコーポレーション 〒101-0062 東京都千代田区神田墨河合4-2-5 トライエッジ御茶ノ水13F TEL : 03-6630-3050 (代) 【デザイン】 YUKA DESIGN Co., Ltd.